

県福祉作文コンクール表彰式開催

応募総数は一万千七十四篇

「第二十八回神奈川県福祉作文コンクール」(主催：県共同募金会・本会、後援：神奈川県、県・市町村教育委員会、NHK横浜放送局、神奈川県新聞社、テレビ神奈川、神奈川の教育を推進する県民会議)の入選作品が決定し、去る一月二十二日に県社会福祉会館で表彰式を行いました。

県内の小・中学生が対象の本コンクール、今年も、県内四百五十五の小・中学校から、一万千七十四篇の応募がありました。地区審査を経て、県審査会による最終審査で、優秀賞十六篇、準優秀賞二十篇、佳作二十篇、合計五十六篇が選ばれました。

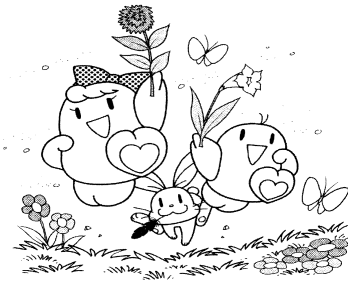
今回も「ともに生きることを考えた、おもいやりや優しさに満ち溢れた、すばらしい作品ばかりでした。

全応募作品を代表して、優秀賞(本会会長賞)を受賞した、座間市立立野台小学校六年・馬場友理恵さんの作文を紹介します。

(ともしび普及課)



神奈川県知事賞受賞のようす



優秀賞

神奈川県社会福祉協議会長賞

バスの停留所

座間市立立野台小学校 六年 馬場 友理恵

これは、ついこの間のことでした。

私がいっしょのように停留所でバスを待っていると、おばさんとおじさんが4、5人先に並んでました。私はこの時、塾の帰りでも疲れていました。(あーあ、来週テストかあ……)そんな中、障害者の男の子が一番手前におばさんに何か言っていました。よく耳をすませて聞いてみると、こう言っていました。

「バ：バアスモ、モオイッチャ……マスタカ?(バス、もう行っちゃいましたか?)」

それに対しておばさんは、かわりたくないのか、そっぽを向きました。その男の子はもう1人のおばさんにも同じように聞いてみましたが、また

「さあ。」

と、かわされてしまいました。男の子は、悲しそうな顔をして次こそは!と私の方を向きました。(どうしよう……。私にも聞くのかな、なんて答えればいいのか……。)すると、やはり私にもたずねてきました。(ああ、どうしよう……。)

「バ：バアスモ、モオイッチャ……マスタカ?(バス、もう行っちゃいましたか?)」

(あーもう分かんないよ。なんて答えればいいのか?)……「言ったつもりではなかったのに、私はハッキリと男の子に「分かんない」と言ってしまった。本当は知っているのに……。まだ、バスは来ていないってことを……。すると、男の子はしょぼりしてバスの停留所からはなれていきました。私は複雑な気持ちでした。何か間違った気がしました。でも、周りのおばさんやおじさんは「ほっ」と安心していました。私はそれを見ておかしいと思いました。何故か同じ人間として恥ずかしいと感じました。

それから数分たちました。すると、またあの男の子がきてまた私にたずねてきました。私はこれが神様がくれたチャンスだと思い、なるべく丁寧にこう言いました。

「まだ、バスは来ていませんよ。」

と、なるべく大きく口をあけて分かりやすく伝えるようにしました。その男の子は、「ア：ンガト……(ありがとう)」とおじぎをしました。私にはその時、その男の子が少し笑ったような気がしました。この時、私は気づいたんです。ちょっと前の自分は、同じ人間の人にしゃべり方や行動が変だからといって、差別をしていたのです。でも、私は男の子がもどってきてくれたおかげで、正しいことをいことができたのです。正しいことを言った後は、心にモヤモヤがありませんでした。

しばらくするとバスがきました。私はいつものようにバスに乗って帰りました。今日は、なんだかいつもより帰りが長く感じました。そして、いろんなことを教えてもらった気がしました。今日のこととはこれからのことに生かせると思います。そして私が大人になったら、ちゃんと差別をしないで障害者やお年よりに優しく接してあげられる人になれたらいいです。